

令和7年度 八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会 議事録

1 開催日時

令和8年1月22日(木) 18:30～19:45

2 開催場所

八千代市役所2階 第1・第2会議室

3 議題

議題1 八千代市の認知症施策と取組について(公開)

議題2 八千代市認知症施策推進計画の策定について(公開)

議題3 認知症施策推進協議会(仮称)について(公開)

議題4 令和7年度 認知症初期集中支援チームが関わった事例について(非公開)

4 出席者名簿

<委員>計11名(敬称略・名簿順)

中村委員長, 三浦委員, 小林委員, 松本委員, 池城委員, 岩崎委員, 柴田委員,
有本委員, 水戸部委員, 松田委員, 関根委員

<事務局>計4名

斉藤課長, 渡邊副主任, 溝口主任保健師, 岡本保健師

5 公開又は非公開の別

一部非公開

6 非公開の理由

八千代市審議会等の会議の公開に関する要領 第4条第2号に該当
(理由) 協議において具体的な事例を提示し, 個人に関する事項を扱うため非公開とする。

7 傍聴者数

0名(定員5名)

8 会議内容

「令和7年度 八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議内容」のとおり

令和7年度 八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議内容

事務局

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和7年度八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日司会を務めます、福祉総合相談課 渡邊と申します。よろしく願いいたします。

本会議は、一部非公開会議としており、議題1～3を公開、議題4は非公開としております。「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第4条の規定により、議題1～3のみ会議を公開するとともに、会議録作成のため、録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

なお、録音機器とマイクを接続している関係から、発言する際はマイクのボタンを押して、マイクのランプが点灯してから発言をお願いいたします。

本会議は、一部非公開会議としており、議題1～3を公開、議題4は非公開としております。「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第4条の規定により、議題1～3のみ会議を公開するとともに、会議録作成のため、録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

なお、録音機器とマイクを接続している関係から、発言する際はマイクのボタンを押して、マイクのランプが点灯してから発言をお願いいたします。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

まず、事前に送付させていただきました資料として

- ・次第
- ・委員名簿

【資料1】八千代市の認知症施策と取組について

【資料2】（令和6年度事例③-⑤～令和7年度事例①-③）

続いて、本日机に置かせていただきました資料となりますが、

- ・席次表

以上、5点です。

事務局に予備がございますので、不足している場合はおっしゃってください。

本会議の開催に当たりまして、福祉総合相談課 課長の斉藤よりご挨拶申し上げます。

事務局（課長）

福祉総合相談課の斉藤でございます。

本日はお忙しい中、令和7年度八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日ごろより本市の保健、福祉行政に対しましてご理解とご協力を賜り、この場をお借りし、厚く御礼を申し上げます。

認知症施策は、令和6年12月に策定された「認知症施策推進基本計画」に沿って推進しております。計画では、認知症になっても個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間と共に、希望を持って自分らしく暮らすことができることが目標として掲げられております。

行政におきましても、認知症の本人の声を拾い、本人の声を起点とした認知症施策の推進が求められております。

本日の会議では、前半に事務局より今年度の取組みと次年度の方向性等について報告させて頂き、後半はチームより認知症初期集中支援チームの活動状況について報告をしていただきます。

八千代市はチームを認知症疾患医療センターに委託していることから、チームに包括的・集中的に支援していただくことで、医療や介護に繋がっていない人が繋がるといった強みがあります。

チームの支援事例から、今後の認知症施策の取り組みの検討に活かしていければと思いますので、委員の皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

では、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、委員の交代がございましたのでお知らせいたします。一般社団法人八千代市歯科医師会の稲山委員が辞任され、新たに小林 巨人(こばやし のり)委員に委員をお引き受けいただきました。小林委員より一言ご挨拶をお願いいたします。

小林委員

八千代市歯科医師会の小林と申します。

昨年まで稲村が務めておりましたが、今期から引き継ぎ、小林が務めることになりました。

八千代市の委員としては、前年までは要保護児童対策協議会の委員を務めていました。久しぶりのこの部屋での会議で、昔は介護認定審査員も務めていました。また一から勉強していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。続きまして、事務局職員を紹介いたします。

改めまして、福祉総合相談課長の斉藤です。

斉藤です。よろしくお願いいたします。

溝口です。よろしくお願いいたします。

岡本です。よろしくお願いいたします。

改めまして、渡邊です。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより、会議に入らせていただきます。進行は中村委員長にお願いいたします。

中村委員長

八千代市医師会の中村でございます。お忙しい中、会議にご出席いただきありがとうございます。

それでは、次第に沿いまして、進行させていただきますのでよろしくお願いいたします。

議第(1)「八千代市の認知症施策・取組みについて」事務局から説明をお願いします。

事務局

議題(1)の「八千代市の認知症施策・取組みについて」ご説明いたします。

「【資料1】八千代市の認知症施策・取組について」を使って説明いたします。

当市の認知症施策を推進するにあたり、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる」を目指す姿として、令和6年1月に施行された「認知症基本法」及び令和6年12月に策定された「認知症施策推進基本計画」に沿って事業を実施しております。

左側が令和7年度に実施した取組で、右側が令和8年度実施予定の取組になります。

令和7年度の取組報告をしつつ、令和8年度の動きも併せてご説明いたします。

令和7年度は、3つの重点取組を設定し、事業を推進いたしました。

1つ目は「認知症の本人とその家族の声を聴く」です。本市は今年度、国が実施している「認知症本人の声を起点にした認知症施策推進モデル事業」に参加しており、認知症本人の声の効果的な拾い方について、国のアドバイザー、千葉県の認知症大使、千葉県の認知症施策担当者に伴走支援していただきながら、検討を重ねているところです。

国は、まずは自治体の認知症施策担当者が地域の認知症本人がいる場に出向き、声を拾っていくよう示しており、今年度は認知症カフェや介護予防サロン、家庭訪問等、様々な方法で認知症本人の声を拾うよう努めてまいりました。

しかしながら、認知症本人が参加していなかったり、認知症本人が参加していたとしても病識が乏しく、声を発信してくださる認知症本人と出会えていない状況が続いております。

八千代市では、令和7年4月1日時点で、65歳以上の高齢者人口51,100人おり、高齢化率は24.7%となっています。

国の2022年の認知症有病率調査に基づいて、患者数を推計すると、認知症患者数は6,285人、軽度認知障害は7,921人、合計で14,206人になります。

地域には認知症患者が多くいると推測される中で、声が拾えていない状況があります。

認知症についてのご相談は、地域包括支援センターが最も多く対応しておりますが、地域包括支援センターにご相談にくる段階では、ご本人ではなく、ご家族から生活面や医療面について緊急性が高い内容が多く、本人の声という形では蓄積できていない状況があります。認知症患者を支援する上で大切なことは、認知症基本法にも定められている「本人の希望を尊重すること」であるため、引き続き、認知症地域支援推進員などと連携しながら検討を重ねて参ります。

また、その他の声を拾う方法として、継続して検討してきた「本人ミーティング」を令和8年1月30日（金）に家族交流会と一緒に開催することになりました。現在の申し込み状況は、市内が1名、市外についても1名、計2名となっております。

市内認知症診療医療機関を含め、様々な関係機関に周知依頼をしているところですが、申込が伸び悩んでいる状況です。

今回の本人ミーティングは千葉県の事業の一環として実施するもので、千葉県認知症大使の方にも参加していただく予定です。今回の開催結果を踏まえて、今後の本人ミーティングの在り方についても検討してまいります。

令和8年度は、重点取組として「本人・家族の声を積極的に聴き施策化する」を設定しており、引き続き認知症本人及び家族の声を広く聴く方法を模索しながら、本人の声を起点とした施策づくりを行っていきたいと考えております。

2つ目は「認知症サポーターの対象拡大」です。今年度は、大和田公民館主催講座として、大和田地域包括支援センター職員が小学生向け認知症サポーター養成講座を開催し、小学生9名の参加がありました。

また、市内小中学校全校実施に向けて、講師を養成する研修を5名の職員が受講しました。

今後、今年度も教育委員会と話し合いの機会を持てればと考えておりますが、

かねてより、限られた授業数の中で、時間を捻出することが難しいとのご意見を伺っているため、保健だよりに認知症について掲載していただく等、実現可能な他の普及・啓発方法も検討していければと考えております。

令和8年度は、小学生向けの認知症サポーター養成講座開催に限らず、「認知症に関する理解促進」を重点取組として設定しております。

「認知症になっても安心して暮らせるまち八千代」を実現するためには、地域の方の認知症への正しい理解が不可欠と認識しております。

国は「新しい認知症観」として、認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも一人一人が個人としてできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方を提唱しておりますが、事業運営していく中では、一般市民、専門職を問わず、認知症に対してネガティブなイメージが根付いていると感じております。実際に市民からは「認知症にだけはなりたくない」「認知症になってしまったら何もできなくなる」、専門職の方からは「認知症は大変」「認知症になったら施設に入れるしかない」等の声を聴いております。

長年に渡って根付いてきたネガティブなイメージを変容していくためには、様々な普及・啓発の機会を通して、地道に「新しい認知症観」について提唱していく必要があり、認知症に対する偏見が持たれないような言葉の表現を心がけていくことも重要と考えております。

令和8年度は、普及啓発の対象者の拡大は意識しつつ、例年実施してきた認知症サポーター養成講座や、9月の認知症月間での普及啓発、講演会等の様々な機会を通して「新しい認知症観」を普及啓発し、認知症に対するネガティブなイメージを変容できるよう努めてまいります。

3つ目は「居場所づくり」です。今年度は、認知症カフェが1か所増えて市内で4か所になりました。定期的に認知症地域支援推進員が訪問し運営の後方支援を実施しました。また、新規でも認知症カフェ立ち上げのご相談があり、立ち上げに向けた支援も実施しました。

認知症カフェが増加している中で、認知症地域支援推進員より、それぞれのカフェの運営状況や課題を共有したいとの意見があり、認知症カフェ運営者交流会を開催し、運営者同士の顔の見える関係づくりを行うことができました。

令和8年度は認知症本人や家族の声を拾いながら、当事者が参加しやすい居場所づくりを検討していきたいと考えております。

その他の取組については時間の都合上、資料にてご確認ください。

引き続き八千代市の認知症施策推進に向けてご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

事務局からの説明は以上になります。

中村委員長

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明に対しまして、何かご質問・ご意見等ございましたら、ご発言いただきたいと思います。

質問がございませんので、以上で議題（1）を終了いたします。

それでは議題（2）「八千代市認知症施策推進計画策定について」事務局から説明をお願いします。

事務局

議題（2）の「八千代市認知症施策推進計画策定について」ご説明いたします。

認知症施策につきましては、令和6年1月に認知症基本法が施行され、同年12月に国が認知症施策の総合的かつ計画的な推進を図るため「認知症施策推

進基本計画」を策定しました。

認知症基本法の中で、市町村においても認知症施策推進計画の策定に努めるよう示されており、本市におきましては令和9年3月に策定予定の「第10期八千代市高齢者保健福祉計画」に包含する形で認知症施策推進計画策定を予定しております。つきましては、令和8年度は計画策定に向けた準備期間になります。

現在の「第9期八千代市高齢者保健福祉計画」においても、基本目標4に「認知症施策の推進」が掲げられておりますが、認知症施策推進計画においては、認知症本人や家族の声を施策に反映させるように示されております。つきましては、議題（1）の令和8年度の取組でもご説明させていただきましたが、認知症総合支援事業を通して、幅広く市民の声を拾い、当事者を起点とした計画を策定していきたいと考えております。

策定体制については、議題3にてご説明させていただきます。

事務局からの説明は以上になります。

中村委員長

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明に対しまして、何かご質問・ご意見等ございましたら、ご発言いただきたいと思っております。

質問がございませんので、以上で議題（2）を終了いたします。

それでは議題（3）「認知症施策推進協議会（仮称）について」事務局から説明をお願いします。

事務局

議題（3）認知症施策推進協議会（仮称）についてご説明いたします。

認知症施策推進計画は、第10期高齢者保健福祉計画の策定を担っている長寿支援課所管の介護保険事業運営協議会で諮りながら策定していく予定です。

しかし、認知症総合支援事業は福祉総合相談課が所管しているため、策定の準備については、福祉総合相談課が所管している審議会で協議をしていく予定です。

今までは、本委員会において認知症初期集中支援チームについて審議してきたところですが、今後は認知症初期集中支援チームについてのみではなく、認知症施策全般について協議を行う審議会が必要であることから、今回の会議をもって認知症初期集中支援チーム検討委員会は廃止とさせていただき、認知症初期集中支援チームを含めた認知症施策全般について協議を行う認知症施策推進協議会を新規で立ち上げたいと考えております。

認知症施策推進協議会の委員構成は、引き続き、現在依頼させていただいている団体に加え、家族の会等の当事者委員を追加したいと考えております。任期は令和8年4月1日以降からを予定しており、運用の詳細が決まり次第、改めて推薦依頼をさせていただきます。

長きにわたり、認知症初期集中支援チーム検討委員会にご尽力いただきありがとうございました。

引き続き、八千代市の認知症施策推進に向けてご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

中村委員長

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明に対しまして、何かご質問・ご意見等ございましたら、ご発言いただきたいと思っております。

池城委員

八千代病院認知症疾患医療センターの池城です。

ご説明ありがとうございました。

認知症推進施策推進協議会の方を作っていくという話で、基本計画や施策のことを考えているというところがありました。委員の中に、当然本人やご家族が含まれていることがありきなのかなと思います。

他市の事例ですけれども、例えばこういった協議会の場合、様々な団体の方にご参加いただいているような事例がありまして、例えば、郵便局や、老人会、民生委員、警察、商工会の人とか、様々な人たちが参加して、本当に広く、認知症に関わる全ての人たち、専門職ではない人達も含めてやっているような事例もありますので、なかなかいきなりというのは難しいとは思いますが、ゆくゆくは八千代市に住む、様々な人たちが関われるようなところまで視野を持って、運営されていった方が、認知症の人にとって、多く声を聞くことができ、施策に反映させることができるのではないかと、いうふうには少し思っております。

中村委員長

ありがとうございます。

それはとてもいいですね。

私からもよろしいでしょうか。

今協議している初期集中支援チームのことについても、その協議会で話すということでしょうか。

今回の事例検討みたいところは、ご本人やそのご家族がいらっしゃる所でしていくことになるのでしょうか。

事務局

なかなか当事者を、このような会議の場に、呼び出すことは難しいとは考えていて、家族の会となると、色々なところで、そういったお話や経験をされている方を想定してはいるのですが、初期集中支援チームは今まですごく専門的なお話をできる場ではあったかと思うので、構成や内容をどうするかは、考えていきたいと思っております。

どなたが委員になるかによっても、構成が変わってくるかなとは思っています。確かに専門的な話をする中で、当事者やご家族を入れた場合だと少し話しづらいとか、専門的な話になり過ぎてしまうということもあろうかと思っておりますので、そこは構成などを考えていきたいと思っております。

中村委員長

はい。ありがとうございます。

今おっしゃったように、多分、多職種だからこそ、ざくばらんに話せるところが難しいかなと思ったので、別途にしてもいいのかなと思われました。

他にご意見ございませんでしょうか。

三浦委員

議題（２）の「八千代市認知症施策推進計画策定について」のところ、先週ぐらいに市町村で８％から９％位しか策定が進んでいないとニュースになっていたのを何かの記事でみたのですが、この計画のことでしょうか。

令和９年３月末までに策定することになっているのですか。

事務局

こちらの計画になります。認知症基本法では、計画の策定は努力義務となっているので必ずではないのですが、90%前後の市町村が策定に向けて準備を進めていると伺っております。

三浦委員

理解できました。ありがとうございました。

先程の中村先生のご質問について、この事例検討が個別的なものなので、委員の方々に個人が特定されてしまう可能性があるのではないかと懸念があるということでしょうか。

中村委員長

ありがとうございます。その懸念と、当事者の前ではちょっと聞きにくいようなこととかを、直球で聞けなくなるというか、例えば、自分が抱えているケースとかで似ていたもので議論になったときに、やはりプライバシーの問題が心配だなと思います。

三浦委員

わかりました。それは発表の方法を工夫すれば良いですね。

池城委員

市の方も構成を考えていくという話がありましたので、様々なところに配慮された形になるようなところを、ご提案いただけるのではないかと考えています。認知症初期集中支援チームとしても、何かあればそのところは協力していきたいと思っております。

中村委員長

ありがとうございます。
他にご意見はございませんでしょうか。
質問がございませんので、以上で議題（3）を終了いたします。